

■ウィンドウズ オブ Wind (風の窓) 北京風車展示会の報告

日本風力発電協会 国際部会長 上田 悦紀
三菱重工業株式会社 江越 英也

中国の2009年の新規導入は13.8GW/年で世界の36%を占めて1位、累積導入量でも25.8GWで世界2位です。この大風力市場を相手に、年に10回以上の風力展示会が開催されています。今回はその一つの6月23日～25日に北京で開かれた展示会の様子を紹介します。

これは比較的規模の小さい展示会ですが、それでも中国風車メーカー7社、部品メーカー250社以上が出展していました。大連重工（クレーン等を製作している総合重工

メーカーでSinovelの親会社）と瓦房店軸受集団公司（軸受メーカー）が風車模型や機器の実物展示を含む大きなブースを出していました。

中国政府は風車の大型化（2.5MW以上）と国内産業育成を誘導していますが、大型化に追従できているのはまだ数社のみで、機器サプライヤーも1～1.5MW用が主流でした。ただしこれは北京が輸送制約の強い内陸市場に近い影響もあるので、沿岸市場に近い上海ではもっとも大型化志向が強いと思います。



展示会場の外観



中国風車メーカー（総合電力：United Power）



展示会場の内側



中国風車メーカー（北车风电：CNR）

中国政府は昨年まで国産化率 70%以上という国産化規制を敷いていたため、発電機、電気機器、ブレード、油圧機器、増速機、ヨー駆動機器、大型軸受、ブレーキ、ケーブル、センサー、工具等の多様なコンポーネントメーカーが育っています。

但し、その品質や信頼性は、まだ見極めが必要だと思われます。



発電機（2 MW 用）



制御盤



増速機歯車



ヨー駆動機器



大型軸受



大型軸受（1.5MW 用）